

## 村上春樹研究：語りの諸相と自他の表出

著者	周 倩
ファイル(説明)	博士論文要約 博士論文要旨 最終試験結果の要旨 論文審査の要旨
学位授与番号	17701甲人社研第38号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/00030823">http://hdl.handle.net/10232/00030823</a>

令和元年8月25日

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科長 殿

最終試験の概要及び結果報告書

地域政策科学専攻 氏名 周 倩

学位論文題目

村上春樹研究——語りの諸相と自他の表出——

(A study of Haruki Murakami: Aspects of Narration and Representation of the self and others)

最終試験の概要

学位(博士)論文に関する最終試験を令和元年7月22日16時より法文学部演習室2で実施した。最初に申請者本人より学位申請論文の概要について説明がなされた後、5名の委員が順にそれぞれの立場から論文についての質問を行ったが、申請者は一つ一つの質問に対し滞ることなく明解な日本語で自己の主張するところを説明した。

委員からは、村上春樹作品のアプローチとして先行研究で行われていない1990年代から2000年代前半にかけての村上の「語り」の技法の変化を、初期作品とも比較しながら作品ごとに丁寧に分析、方法論的な試行錯誤を跡付けた点が高く評価された。

「語り」に着目するあまり、作品に溢れる様々な表象を捨象してしまう傾向があることや、先行研究の取り込み方にやや難があることなど問題点も指摘されたが、各章を構成している作品論の完成度が高く、今後さらなる飛躍が期待され、欠点を補うに余りあるという評価を得た。

以上により、博士(学術)の学位を与えるに十分な学力と見識を有するものと認定した。

授与する博士学位 学術

最終試験結果 合

試験委員

主査 丹羽 謙治

副査 高津 孝

副査 竹岡 健一

副査 波瀾 剛

副査 多田 蔵人